

令和 4 年度

# 人権を学ぶ会

## 「まとめ」

実施期間:令和 4 年 9 月~11 月

北 栄 町  
北栄町教育委員会  
北栄町人権教育・啓発推進協議会

## 令和4年度 人権を学ぶ会 実施概要

北栄町の将来像である「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」の実現のため、人権を尊重するまちづくりを推進する必要がある。その具体的な取り組みとして、町民一人ひとりが学ぶことをきっかけとして、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざして「人権を学ぶ会」を実施した。

今年度の学習内容は、事務局が指定した DVD 視聴による学習と、各自治会の希望テーマによる個別学習から各自治会が選択し実施した。

また、コロナ禍のなかでの開催にあたり、各自治会の主体性を尊重し、実施の可否や参加定員の設定などは各自治会において判断していただいた。

なお、人権を学ぶ会の開催は9月10日から始まり、11月21日で終了した。

### 【実施状況】

実施自治会	37 自治会
未実施自治会	26 自治会

### 【学習内容】

DVD 視聴	35 自治会
個別学習	2 自治会(戦争問題と人権、同和問題)

### 【特記事項】

未実施自治会に対しては、自治会内での人権啓発放送と、人権啓発チラシの配付を依頼した。

### (学習のポイント・ねらい)

- 人権問題が私たちの生活の中で身近にあり、自分自身に関わる問題でもあることに気づき、問題解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。
- これまでの自分の行動や発言について、差別に結びつくことや偏見などがなかったか振り返る。
- 人権問題に対する正しい認識や判断力を持ち、身のまわりの不合理を正していくための力をつけるために、継続的な学習参加の必要性を認識する。
- 一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、お互いを認め合い、人と人との助け合い、支え合い、交流により、すべての人の人権が尊重された安心して暮らせるまちづくりにつなげる。

## 令和 4 年度 人権を学ぶ会 まとめ

実施期間 令和 4 年 9 月～11 月

実施自治会 37 自治会

参加者数 591 人（昨年度 431 人）

参加率 12.0%（昨年度 8.7%）

〔参加者の意見から〕

### 人権を学ぶ会の取り組みについて(抜粋)

- コロナ禍の中、実施して頂き感謝。違う人権も学習してみたい。
- 同じDVDを見て地域の方が一緒に学ぶことは、地域にとって宝物になると思う。
- 正しい理解をするためにも、人権を学ぶ会はこれからも続けてほしい。
- 意見交換の時間を取ったほうが、学びが深まると思う。
- 参加人数は少なかったが、学びたいという人の会であったような気がした。
- 時間が経つと思いやりや相手の事を考えると、だんだんと忘れていくが、会に参加してまた新たに思い直して、周りの人に思いやりの気持ちが持てたりする。
- 毎年同じことの繰り返しではなく、難しいことではあるが、認知を深めるための工夫がほしい。例えば、実際に認知症の人に身近な人の話を聞くとか……。

〔考察〕

新型コロナウイルス感染症の影響で各自治会の行事が相次いで中止となるなか、北栄町人権教育推進協力員会議や北栄町人権教育地区推進員会議などでも人権を学ぶ会の実施の可否について検討を重ね、密を避けるなどの感染防止対策を徹底したうえで実施することとした。

行事そのものを自粛している自治会があるなか、人権を学ぶ会の実施自治会は昨年より 7 自治会增加し 37 自治会で開催され、参加者数も昨年より微増の 591 人（160 人増）となった。

ただし、コロナの影響から 3 年間未実施の自治会もあることから、数年ぶりの人権を学ぶ会の開催となった場合など、自治会内の実施体制や参加意欲などが懸念されることから、今後そのような自治会に対する適切なフォローが必要となる。

なお、今回の教材 DVD「認知症と向き合う」が高齢者の人権、特に認知症をテーマとしていることから、今年度は関連団体である「北栄町地域包括支援センター」及び「北栄町福祉課」と連携し、啓発チラシ等を作成、参加者に配布した。

さらに、人権を学ぶ会の中止による学習機会の補完を求める声に応え、琴浦町・湯梨浜町・北栄町 3 町で連携し TCC 人権啓発番組を作成・放映した。

### 社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見(抜粋)

- 認知症に対する正しい知識、気をつけたい事が明確で勉強になった。具体的な例があり、また、対応の仕方もあり分かりやすかった。
- 毎日の生活の中で相手を思いやることは、自分に余裕がないとなかなか難しいものだと思う。自分の不用意な行動、発言に十分注意していきたい。
- 昔祖母が認知症になって、家族で介護したが大変だった。今回勉強したことをその時知っていたら、もっと祖母が楽に暮らせていたかもしれないと反省した。
- 認知症の人を抱える家族、周囲の人達の支えがいかに大切か。また家族の対応など、とても勉強になった。
- 何もわからない、何もできないという先入観を持っていたが、誤りだと気づけた。

#### [考察]

人権を学ぶ会を実施した37の自治会のうち、35の自治会で教材DVD「認知症と向き合う」を視聴し、高齢者の人権に関する学習テーマで学んだ。

「認知症について理解し、認知症の人を大切に思うことがよりよい地域につながっていくことに気づいた」という意見や、「まずは認知症を知ることが大切だ」という意見が多くあった。

一方で、実際に介護する状況となった場合に、今回学習した内容がうまく活かせるか、不安を感じるという意見もあった。

また、作品中の「知は力なり。よく知ろう。」というフレーズが印象的だったとする感想も複数あり、認知症だけではなく、様々な差別や偏見などがあることにまずは気づき、その解消のために自分は何ができるのか考えていく必要がある。

### 学んだことから行動に活かす意見(抜粋)

- 自分自身の体験と重なる部分が多くあり、家族以外のサポートの重要性を改めて感じた。自分も地域の中で少しでもサポートできるようになりたい。
- 「知は力なり」とはまさに正しいなあと思った。必要になってからではなく、知識をつけて備えていきたい。
- 家族(妻・子ども)にも見せたい内容だった。90歳の母がいるので今日学んだことを、家庭でも活かしたいと思う。
- 人権は日々人を思う、自分自身を大切にすることの継続である。今日参加して自分自身のことを振り返り、地域の人に思いを寄せることができると改めて感じた。
- 高齢社会の中で日常に当たり前にある問題を指摘された。一人ひとりを大切に相手に寄り添う必要を覚えた。

#### [考察]

「認知症の人とその家族を支える人の存在の大切さ」、「今後に活かしたい」という意見を多くいただいた。認知症の特性や対応方法を知る、家庭や地域においても認知症の人との関わりを改めて考えるなど、学びを深める機会となっている。

人権を学ぶことで、一人ひとりが大切にされ、共に支え合える地域につながっていくことをさらに伝え、それぞれの行動を促していく必要がある。

## 〔参加者アンケート結果から〕

### ●アンケートの概要

次年度以降の学習方法・内容等の検討資料とするため、人権を学ぶ会の参加者を対象にアンケートを実施した。

また、平成 30 年度よりアンケートにおける性別欄を撤廃した。これは、性的少数者への配慮に加え、性別の記載が必要な情報ではないと北栄町人権教育推進協力員会議で判断したことによる。

なお、これまではアンケートの回収率を上げるために、会の途中に記入時間を設けていたが、複数の要望を受け、令和 2 年度より訪問者の終わりの挨拶の後、閉会後にアンケート記入するよう日程を変更し、アンケートの回収率は上がっている。

◆アンケート回収率 94.8%(参加者 591 人中 560 人分回収)

※昨年度回収率 93.7%(参加者 431 人中 404 人分回収)

### ◆アンケート回答者の年齢

(単位:%)

	19 歳 以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上
R4 年	1.2	0.4	3.4	11.4	15.0	35.8	29.9	2.9
R3 年	1.0	0.5	3.6	9.8	16.0	39.9	25.8	3.4
R2 年	0.2	0.2	4.4	14.3	18.2	36.4	23.5	2.8
R 元年	3.9	0.5	5.0	14.4	17.1	33.7	22.1	3.3
H30 年	1.0	0.2	3.5	11.2	19.2	40.2	21.8	2.9

#### 〔考察〕

全ての参加者のうち、50 代以下と 60 代以上で区分した場合の参加者割合は、50 代以下は全体の 31%(昨年 31%)、60 代以上は全体の 69%(昨年 69%)となり、若年層の参加率が低い傾向が続いている。

今年度も各自治会で、コロナ感染対策のため参加者を自治会役員のみ限定するなどの参加制限もあり、50 代以下の低い参加率の一因と推察される。

DVD 視聴等を中心とした現在の学習方法は、中高生などを含めた若年層の参加も十分意義があり、今後も若年層の参加を増やしていくために、家族ぐるみの参加を促すことや、学校等への働きかけも継続していく必要がある。

なお、高齢者については老人クラブ等の団体を対象とした「人権を学ぶ会」を並行して開催しているため参加者が分散している状況もある。

●アンケート結果と分析(数値:%)

問1 本日の人権を学ぶ会に参加して、あてはまる回答にひとつ〇をしてください。

① 今日の学習内容(DVD・ミニ講演等の内容)は、

	ア わかりやすかった	イ わかりにくかった	ウ どちらともいえない
R4年	95.4	0.2	4.4
R3年	95.8	2.0	2.2
R2年	90.8	2.6	6.6
R元年	83.8	4.2	12.0
H30年	75.1	6.9	18.0

〔考察〕

学習内容について「わかりやすかった」と回答した参加者は95.4%で、過去5年間の中で2番目に高い割合となっている。

今年度は多くの自治会で教材DVD「認知症と向き合う」を活用し学習しているが、アンケート意見の中には、「DVDのねらいや視点が資料中に明記してあり分かりやすい」、「もっと地域の人に見てもらいたい内容である」、「自分も経験しており共感できる」などの意見もあり、結果はその現れと考えられる。

また、今回のテーマである認知症は、認知症の人との関わりは日常に直結しており、認知症の理解を深め、その対応の方法や寄り添う気持ちを持つことなど参加者の多くが自分事としてイメージしやすい学習内容だったこともこの高い割合につながっていると考えられる。

② 今回の懇談は、話しやすい雰囲気です(懇談を行う学習パターンAのみの設問)

	ア あった	イ なかった	ウ どちらともいえない
R4年	—	—	—
R3年	—	—	—
R2年	—	—	—
R元年	71.7	2.2	26.1
H30年	59.7	4.5	35.8

〔考察〕

今年度も感染防止対策のためDVD視聴後の懇談は実施しない自治会がほとんどであったことから、アンケートの設問はしていない。

アンケートの自由記載欄には、懇談がないと学びが深まらないなど、懇談を求める意見が複数あったものの、例年よりこのような懇談を求める意見は少なく、改めてコロナ禍での学習方法の難しさが伺える。

しかし、懇談という形ではなくても、多少の感想をいう場面が欲しかったとする意見もあり、これまで懇談を取り入れた学習方法を実施していた自治会やその参加者にとっては、物足りなさを感じていることが推察される。

### ③ 今回の人権を学ぶ会に参加して、今後に活かせる学習に

	ア なった	イ ならなかった	ウ どちらともいえない
R4年	91.6	0.2	8.3
R3年	92.1	0.7	7.2
R2年	86.3	0.7	13.0
R元年	78.0	0.8	21.2
H30年	73.7	2.1	24.2

#### [考察]

昨年と比較すると、今後に活かせる学習になったとする割合は微減したが、過去5年間の中で、2番目に高い割合となっている。これは、「具体的な事例が多かったので、分かりやすかった」などの意見も複数あるように、DVDの内容が、これまでの自分自身の経験と重ねたり、今後、誰でもなり得る認知症を扱った内容と相まって、自分事として捉えやすかったことも考えられる。

家庭や地域における認知症の人やその家族との関わり方については、配慮が必要となる場面やプライバシーの問題もあるが、心を寄りそわせ改めて自分ができることを知ることで、何が人権問題なのかを気づき、行動することが可能になる。

人権問題の解消は、まず「知る、感じる、気づく」ことから始まり「行動」へと繋がっていくものであり、今後も「知る、感じる、気づく」を導く学習テーマや教材を提供し、一人ひとりの「行動」につながる学習としていく必要がある。

### ④ 次回の人権を学ぶ会は、

	ア 参加したい	イ 参加したくない	ウ どちらともいえない
R4年	73.5	0.5	26.0
R3年	80.0	0.5	19.5
R2年	74.3	0.7	25.0
R元年	68.0	1.4	30.6
H30年	70.5	1.3	28.2

#### [考察]

設問①の分かりやすさや、設問⑤の満足度の高さに比較して、次回も参加したいと回答した割合はそれほど高い割合となっていない。これは、問2でも後述するが、はじめて参加した人の次回も参加したいとする回答の割合が低いことから、結果として次回も参加したいとする全体の割合を押し下げていることが推察される。

「参加したい」の理由として、「様々な人権問題を正しく知り、その向き合い方を学びたい」、「学ぶ機会があることは重要」など、新たな知識を得ることができたことや、理解につながったとするアンケート意見があることから、実際に学びを感じた参加者が次回も参加したいとする前向きな意見につながっていることが伺える。

さらに「昼間の開催で参加しやすかった」との意見もあり、今年度、昼間に開催した3つの自治会では、いずれも昨年より参加者が大幅に増え、参加者の満足度も100

%となっていることも特筆すべき点である。

一方で、「どちらともいえない」と回答した意見の中では、「学びたいテーマであれば参加する」、「時間帯が合えば参加する」などの意見も複数あった。

様々な人権問題について興味関心を持っていただく効果的な周知とともに、より参加しやすい開催時期や時間など、自治会と一緒に検討することが必要である。

### ⑤ 今回の人権を学ぶ会の満足度はどれくらいですか？

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満
R4年	46.0	45.4	7.7	0.7	0.2
R3年	49.0	43.1	6.3	1.3	0.3
R2年	37.3	49.2	12.6	0.4	0.6
R元年	27.4	52.6	18.0	1.9	0.1
H30年	25.3	48.5	22.2	3.4	0.5

〔考察〕

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると91.4%になり、過去5年間で2番目に高い満足度であり、満足度が9割を超えるのは、昨年に引き続き2回目となった。これは、設問①の分かりやすさや設問③の今後に活かせる学習になったとする回答も高い割合だったことも要因として挙げられ、分かりやすさに加え、身近なテーマ設定での学習内容が満足度を押し上げたものと推察される。

また、満足度に関しては懇談の有無も影響すると思われる。年に1回の限られた時間のなかで、参加者確保を含め「まず知ること」を優先するのか、参加者が少なくても一人ひとりの認識の「深まり」を優先するのか、又はその両立を図るのか。

コロナ禍ということもあり、今回懇談を実施したのは1自治会のみであったが、懇談の実施については当面は柔軟な対応をしていくことが求められる。

### 問2 この3年間に人権学習の場に何回参加されましたか？

	ア 5回以上	イ 3回~4回	ウ 1回~2回	エ はじめて
R4年	13.7	25.9	33.3	27.0
R3年	14.8	34.0	32.7	18.4
R2年	17.9	37.1	30.0	15.0
R元年	18.2	33.6	30.2	18.0
H30年	17.6	33.3	32.8	16.3

〔考察〕

はじめて参加した人の割合が過去5年間で最も高い割合となった。特に3つの自治会で、はじめて参加した人が参加者の5割を超えており、過去にこのような例はない。



該当する 3 つの自治会に問い合わせたところ、2 つの自治会で役員のみでの参加制限で実施し、残りの 1 つの自治会でも多くの参加者が役員だったことから、役員という割り当て、あるいは責任感から初めての参加につながったことが伺える。

ただし、この 3 自治会の「次回も参加したい」とする回答は 58.1%に留まっており、新たな参加者を増やし人権を学びきっかけにつなげていくことと同時に、継続した学びとしていく工夫も必要である。

また、今年度も関連団体である「北栄町地域包括支援センター」及び「北栄町福祉課」と連携した。今後とも人権を学ぶ会で取り上げるテーマと関連する団体等と連携し、人権の取り組みの裾野を広げていくことを意識しながら、引き続き連携・啓発に努める必要がある。

### 問 3 今後、学びたい人権テーマや、興味ある人権テーマは？(上位 5 テーマ)

- |                |              |        |
|----------------|--------------|--------|
| ①障がいのある人の人権    | 173 人(15.0%) | 昨年 2 位 |
| ②高齢者の人権        | 170 人(14.7%) | 昨年 1 位 |
| ③子どもの人権        | 125 人(10.8%) | 昨年 3 位 |
| ④インターネットにおける人権 | 118 人(10.2%) | 昨年 3 位 |
| ⑤病気にかかわる人の人権   | 95 人( 8.2%)  | 昨年 7 位 |

### 問 4 今回の学習内容(人権問題)に関連したご意見・ご感想をご記入願います。

#### 〔主な記述の抜粋〕

- ・今回の内容は、学校現場でも利用されてはどうか？子どもにもよくわかる内容だと思う。
- ・DVD視聴後の認知症に関するプリント説明が、わかりやすくてよかった。
- ・町内で月1回「認知症家族の会」が開催されているが、一般に知られていない。もっと広めて、参加者を増やせばと思う。
- ・認知症について理解を深めることができたと思うが、地域の中でどのような支援や関わりができるのか、ヒントがほしかった。
- ・人権問題は多くのテーマがあり、しかも時代で変わっていく。人権を学ぶことは生きている限り、町民として必要な活動だと思う。

#### 〔考察〕

「コロナの影響もありながら実施できてよかった」、「人権学習を繰り返すことが大切」など、貴重な学びの場になっていることが伺える。

また、知識を得た一方で、認知症の人に対する実際の対応について不安を感じたり躊躇する気持ちも伺える意見もあったが、学習ポイントだけではなく、認知症の人に対する具体的な行動を例示した配布資料も分かりやすかったとする意見もあり、配布資料も含めさらに工夫していくことが必要である。

## 問 5 本町人権教育の取り組みについて、ご意見・ご要望があれば記入願います。

### 〔主な記述の抜粋〕

- ・今後も人権を学ぶ会を継続して実施してほしい。
- ・今後自分が思いだすためにも、町のHPでも教材が見れるようにしてほしい。
- ・参加型の人権学習をされてはどうか。
- ・学習内容はいつも同じパターンであり、もう少し考え方を考えてほしい。
- ・平素から参加していない人、また参加したくても何らかの理由で参加できない人に参加してもらえるような、思い切った取り組みの検討をお願いしたい。例えば、若い方たちにアンケート調査をしたり、ネット配信のDVDを見ることができたらもっと参加できると思う。
- ・町民の人権意識を高めていく上でも、参加者数を増やしていく手だてを是非考えて頂きたい。特にコロナにより集まりを控える方もあり、不安感を和らげるとともに、人権を考える事の大切さをしっかり伝えていくことは必要だと思う。
- ・高齢化社会において、認知症対策は重要であり、地域で安心して暮らせる対策をお願いしたい。
- ・現状の取り組みで良い。

### 〔考察〕

いただいた様々なご意見について十分に検討していく必要がある。例年は若年層の参加促進や、他の自治会行事と併せた開催で参加者を増やすべきなどの意見をいただいているが、今年度は「ネットなどでも DVD 教材を放送してほしい」という意見に応え、琴浦町・湯梨浜町・北栄町 3 町で連携し TCC 人権啓発番組を作成・放映し、好評であった。

今後も、コロナ禍においても安心して参加でき、さらにマンネリと捉えられないよう「思い切った取り組みの変化」を含めて引き続き検討していくべきである。

### 〔おわりに〕

近年、少子高齢化、核家族化、ひとり親世帯の増加や地域のつながりの希薄化から、家族内や地域内での互いが支え合う力の低下が問題となっている。また、コミュニケーションの低下した状態での人間関係は、お互いを思い合い、違いを認め合うことも遠ざけてしまう。

このような社会状況の中で、地域の共助や地域全体で支える力を維持・再構築するためにも、町民一人ひとりが人権について学び、「誰一人取り残さない」地域にしていけるよう一緒に考え、実践することは重要であり、「人権を学ぶ会」の果たす役割も益々大きくなっている。

今後も、様々な人権問題の解消と人権が尊重された住みよいまちづくり推進のため、「人権を学ぶ会」を充実・発展させていき、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざす必要がある。